
世界の終わりに

秋野 功成

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の終わりに

【Nコード】

N5444K

【作者名】

秋野 功成

【あらすじ】

部屋にこもり、毎日チャットをする少年。世界の終わりの日にも少年はチャットをする。だが、何のためにチャットをするのだろうか。

（前書き）

金曜ロードショー「ディープ・インパクト」を見て、勢いで書いた作品。

遂行もろくにしていなが、こういうのは勢いで投降するもんだと思ってる。

きつと投降して数日したら作者は恥ずかしさのあまり悶えています。

もうあと一時間ほどで、隕石が地球に衝突し、津波が地球全土を流してしまうのと言う。

みんながパニックに陥る中、俺は一人パソコンの電源を入れた。
毎日この時間に、必ずチャットをする。

この日に限って、どこの部屋も満席だった。まったくみんな暇人なんだなと悪態を吐きつつ、その暇人である俺も、あいている部屋に入った。

セン「こん」

ジウ「こん」

イチ「センやつほー」

ジウ「毎日暇なんだなセンも」

セン「おまえらもだろw」

たまたまあいている部屋に入ったのに、見慣れた名前がそろっていた。多少運命めいたものを感じつつも、俺はいつも通りキーボードを叩く。

セン「あと一時間で俺ら死ぬんだが、どうやっておまえら過ごす？」

五世「寝るーw」

ジウ「やっぱチャットかな？」

十色「ちよつと津波でサーフィンやってくる↑」

セン「www」

イチ「www」

五世「www」

ジウ「www」

相変わらずな会話。

あと一時間で俺らは死ぬ。だがその実感はいまだに無く、狂ったように叫ぶおじさんや、死を覚悟して泣き続けるおばさん、性欲のために女性を襲おうとして逆に殺された男や、自殺に走った少女などが窓の外にいるが、そんなものは他人事だし、他人事と思う自分自身もどこか他人のように見えた。

正直、俺の居場所はチャットだけだった。こいつらと会話して、ただ自分を和ますだけが、唯一の楽しみだった。

セン「じゃあ、カレーの話題でもしますか」

ジウ「何故にwww」

会話もなかなか弾んできたころ、急に十色が発言した。

十色「じゃ、そろそろサーフィンの準備してくる」

セン「さっきの話本当だったのかw」

十色「俺は嘘をつかない主義なんだよ」

セン「嘘つきw」

十色「んじゃ、落ち」

セン「乙」

五世「乙カレー」

イチ「おつ」

そう発言して、十色は落ちた。

みんな何から発言していいか分からず、数秒ほど発言が無かったが、やがて他の奴らも「そろそろ落ちる」と言って、落ちていった。

そろそろお開きなんだなと思い、残り三人ほどになって落ちようとした途端、イチが言った。

イチ「セン、さっきの話題なんだけどさ」

セン「ん？」

イチ「センは、どうやって過ごすの？」

何か打とうとして、言葉に詰まった。

本当はチャットをして過ごすつもりだった。だがお開きの空気になってしまった以上、居つづけるのは気分が悪い。

一体俺はどうしたかったのだろう？

イチ「セン？」

俺の発言を待つイチ。だがそれと同時に、階下から親の声が聞こえた。

気づけば隕石が落ちるまであと十分。

俺は少しだけ悩み、やがてキーボードを叩いた。

「俺は、家族と過ごすよ」

まったく、俺はとんだ家族バカだったと思う。

イチは最後に「じゃあ、私と同じだね」と言って、俺より先に落ちていった。

俺はパソコンの電源を切り、階段を下りた。降りた先には不安そうな顔をした両親が俺を見ていた。

そんな両親を見て、俺は二人の手を握り、こう言った。

「いままで迷惑かけてごめん」

まったく、本当にとんだ家族バカだったんじゃないかと思う。でもバカでよかったと思う。

(後書き)

よく考えたら地球最後の日って電気とか回線とかろくに通ってない気がする。でも今更過ぎた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5444k/>

世界の終わりに

2010年11月24日08時56分発行